

平成 22 年 2 月 23 日

第 19 回日本医療薬学会年会 開催報告

第 19 回日本医療薬学会年会

年会長 佐々木 均

長崎大学病院薬剤部 教授・薬剤部長

事業名：第 19 回日本医療薬学会年会

主催者名：一般社団法人 日本医療薬学会

年会長：佐々木 均（長崎大学病院薬剤部 教授・薬剤部長）

会 頭：北田 光一（千葉大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

後援： 社団法人日本病院薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、社団法人日本薬剤師会、
社団法人長崎県薬剤師会、社団法人日本薬剤学会、日本薬科機器協会、
長崎県、長崎市

実施日程：平成 21 年 10 月 24 日（土）～ 25 日（日）

実施場所(会場数：15 会場)：

長崎ブリックホール

〒852-8104 長崎市茂里町 2-38

TEL：095-842-2002 FAX：095-842-2330

長崎新聞文化ホール（アストピア）

〒852-8104 長崎市茂里町 3-1

TEL：095-844-2121 FAX：095-848-4856

NCC&スタジオ

〒852-8527 長崎市茂里町 3-2

TEL：095-843-7007 FAX：095-843-2549

長崎県医師会館

〒852-8532 長崎市茂里町 3-27

TEL 095-844-1111 FAX：095-844-1110

長崎県立総合体育館（アリーナかぶとがに）

〒852-8035 長崎市油木町 7-1

TEL：095-843-6521 FAX：095-847-1274

※会場間はシャトルバスを運行

懇親会：10 月 24 日（土）グラバー園

年会の趣旨：

平成 21 年 10 月 24・25 日（土・日）、長崎の地において、第 19 回日本医療薬学会年会「医療薬学の創る未来：科学と臨床の融合」を開催した。

医療の歴史のなかでも、長崎は特別な地である。日本の鎖国時代、外国との窓口は長崎の出島商館だけで、唯一の西洋医学を知る場所でもあった。出島の医師であったシーボルトが西洋医学による診療を市民に行い、大きなインパクトを与えた地であり、薬剤師ビュルガーが調剤を行った医薬分業発祥の地でもある。シーボルトの後、モーニッケ、ファン・デン・ブルックを継いだポンペは、基礎科学に立脚した系統的な医学教育や臨床実習を日本人に行った。ポンペが日本人学生に向けた「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」という言葉は、医師だけでなく、薬剤師を含めた医療者すべてに向けた言葉として、今も輝きを放っている。

先端科学としての医療には、系統的科学の教育と実践が重要であり、医療倫理が必須であることをポンペは教えている。また、応用の学問である医療が、実践により社会に貢献し、より良い未来を創造できることをシーボルトは示した。

そこで本年会では、科学・臨床業務・社会性（教育・倫理・国際性）の 3 つのキーワードを念頭に、最先端の特別講演、教育講演、基調講演、シンポジウムを準備した。がん治療、感染制御、緩和医療、糖尿病治療、精神科治療、妊婦・授乳婦薬物治療、NST、HIV、治験・臨床研究などの専門的なテーマをはじめとして、薬剤師すべてに必須の、安全管理、薬薬連携、在宅ケア、薬学教育、実務実習などのテーマ、また、薬学能力の充実を目的とした、薬物動態学、化学と臨床、薬物副作用、臨床研究計画法、統計学などをテーマとした多彩なシンポジウムや研修会を用意した。今回、がん治療をテーマにした日本薬剤学会との合同シンポジウム、個別化医療をテーマにした国際薬剤師・薬学連合との合同シンポジウム、薬剤師業務をテーマにした日中韓の合同シンポジウムも開催した。一方、「爆笑！健康塾～笑って長生き～」と題した市民公開講座や、国の重要文化財が数多く集まったグラバー園での懇親会も企画した。

約 150 年前、日本中から多くの知識人が熱い思いを持って長崎へと集い、好奇と驚きのなかで議論を戦わせ、さまざまな知識や技術を学んできた。長崎のいたるところで、長与専斎、上野彦馬、長井長義、高峰讓吉、坂本竜馬などの足跡を見ることができる。本年会も当時さながらに、全国から優秀な知識人・職能人が集まり、熱気溢れる議論の場となったことを願っている。

会費等の設定：

	カテゴリ	事前	当日
登録費	会員	8,000 円	12,000 円
	非会員	12,000 円	15,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円
懇親会	一般	8,000 円	10,000 円
	学生	4,000 円	8,000 円
海外（CJK シンポジウム関係）			8,000 円

講演要旨集：3,000 円

市民公開講座：無料

ワークショップ（事前予約制）：無料

事前登録締切：8月24日（月）

事前登録証・要旨集（領収書）発送：9月末

事業内容：

1. 年会テーマ：医療薬学の創る未来：科学と臨床の融合
2. 年会長講演：1
3. 特別講演：5
4. 教育講演：2
5. 受賞講演
6. 教育セミナー：2
7. シンポジウム：23（FIP国際シンポジウム2、日中韓シンポジウム1）、
8. 共催シンポジウム：2
9. ランチョンセミナー：25
10. モーニングセミナー：2
11. ワークショップ：3（事前登録制）
12. 市民公開講座
13. 一般演題：口演 203 演題 ポスター1069 演題（1日目：568 題 2日目 501 題）

参加者数:

総参加者数：4,563名（海外からの参加者：82名含む）

懇親会：534名

市民公開講座：約150名

[参加者内訳参考資料]

参加者内訳	正会員	非会員	学生	合計
事前	2,246	658	215	3,119
当日	481	486	101	1,068
アジア（一般参加）		71		71
一般参加者 計	2,727	1215	316	4,258
招聘者・関係者（日本）		294		294
招聘者（アジア）		7		7
（オーストラリア）		1		1
（アメリカ）		2		2
（ヨーロッパ）		1		1
招待者 計	0	305	0	305
総計	2,727	1,520	316	4,563

事業成果：

平成21年10月24日（土）、25日（日）の2日間にわたり、第19回日本医療薬学会年会を長崎ブリックホール他で開催し、海外からの招待・参加82名を含む4,500名以上の参加を得ることができた。一般演題については、昨年、一昨年に引き続き組織委員、実行委員により厳正な採択審査を行い、数演題を不採用とし、数十題の演題について要旨の訂正を求めた。最終的な演題数は口頭発表203演題、ポスター発表1069演題、計1272演題であり、今回も1,200題を超える演題数であった。例年通り、年会前日10月23日（金）には日本病院薬剤師会主催の病院薬局協議会を開催した。また日本医療薬学会が一般社団法人へと移行したことから、第1回臨時社員総会を開催した。

メインテーマは「医療薬学の創る未来：科学と臨床の融合」とし、科学・臨床業務・社会性（教育・倫理・国際性）の3つをキーワードに、過去最多となる23のシンポジウムを企画した。シンポジウムテーマはがん治療、感染制御、緩和医療、糖尿病治療、精神科治療、妊婦・授乳婦薬物治療、NST、HIV、治験・臨床試験などの専門的なテーマ、薬剤師の新たな業務展開、安全管理、薬薬連携、在宅ケア、薬学教育、実務実習などの薬剤師すべてに必須のテーマ、薬物動態学、化学と臨床、薬物副作用、臨床研究計画、統計学といった薬学能力の充実を目的としたテーマと薬剤師が関与すべき内容を網羅した。特に今回、鎖国時代において海外との唯一の窓口であった長崎という土地柄から国際性に注目し、国際薬学連合（FIP）とのジョイントシンポジウム、東アジア（日中韓）の薬剤師によるシンポジウムを開催し、国際性に富む討議を行うことができた。特別講演5の演者として衆議院議員に当選して間もない（開催時）福田衣里子先生を招聘し、薬害についてお話しいただいた。ワークショップでは実際にPCを持参してもらい、より実践的に統計学を理解してもらう場を提供した。一方、「爆笑！健康塾～笑って長生き～」と題した市民公開講座を開催し、一般の方々にも楽しく参加してもらえたと考える。

本年会はメイン会場である長崎ブリックホールを中心として浦上エリアとポスター・機器展示会場である長崎県立総合体育館が離れていたため、参加者には若干不便であったかと思われるが、シャトルバスを定期運行するとともに、移動者が多いと考えられる時間にはバスの台数を増便するなどの対応を取ることでより大きな問題なく運営できた。機器展示についても医療機器メーカー、製薬メーカーすべてを総合体育館のメインアリーナに集めたことから、出展メーカー、参加者ともに好評であった。懇親会は今回、会場として国の重要文化財が多く集まったグラバー園を使い野外で開催し、海外の招聘・参加者からも称賛を得た。

年会の財務関係では、本年会は医療薬学会が一般社団法人化されて第1回目の年会であったことから、ノウハウがない中、事業税を考慮して予算編成を行うなど多くの労力を必要としたが、赤字を出すことなく収支を終えることができた。

監查報告書：

第19回日本医療薬学会年会収支計算書

【収入の部】

大項目	勘定科目		金額	内訳		摘要
	中項目	小項目		単価	数量	
1事業収入			96,155,397			
	参加費		43,709,000			
		1 会員(事前登録料)	17,968,000	8,000	2,246	
		2 会員(当日登録料)	5,772,000	12,000	481	
		3 非会員(事前登録料)	7,896,000	12,000	658	
		4 非会員(当日登録料)	7,290,000	15,000	486	
		5 学生(事前登録料)	645,000	3,000	215	
		6 学生(当日登録料)	404,000	4,000	101	
		7 懇親会(事前登録料)	2,200,000	8,000	275	
		8 懇親会(学生事前登録料)	12,000	4,000	3	
		9 懇親会(学生当日登録料)	24,000	8,000	3	
		10 懇親会(当日登録料)		10,000	93	
		11 海外(当日登録料)	568,000	8,000	71	
	講演要旨集販売 共催事業収入		105,000			
			21,420,000			
		1 ランチョンセミナー共催金(大)	2,520,000	1,260,000	2	
		2 ランチョンセミナー共催金(中)	5,040,000	840,000	6	
		3 ランチョンセミナー共催金(小)	11,970,000	630,000	19	
		4 サテライトシンポジウム共催金(中)	1,050,000	1,050,000	1	
		5 サテライトシンポジウム共催金(中)	840,000	840,000	1	
	展示出展料		16,881,397			
		1 医薬品出展料(基礎小間)	9,310,000	245,000	38	機器展示
		2 医薬品出展料(フリースペース)	4,680,000	180,000	26	機器展示
		3 協賛費	2,625,000			日本薬科機器協会
		4 ブース設置料	31,500			韓大塚製薬工場
		5 書籍展示料	89,895			韓九州神陵文庫
		6 物産展出展手数料	145,002			社)長崎県物産展振興協会
	助成金		4,100,000			
		1 日本医療薬学会、日本病院薬剤師会	1,000,000			医療薬学会へ返金
		2 コンベンション開催補助金	3,000,000			社)長崎国際観光コンベンション協会
		3 アトラクション出演料補助金	100,000			社)長崎国際観光コンベンション協会
	寄付金		9,940,000			
		1 日本製薬団体連合会	9,000,000			
		2 その他	940,000			
2雑収入			2,410,820			
	広告掲載料		2,404,500			
		1 講演要旨集(1面)	672,000	84,000	8	
		2 講演要旨集(1/2面)	892,500	52,500	17	
		3 講演要旨集(1/4面)	630,000	31,500	20	
		4 講演要旨集(1面表3)	210,000	210,000	1	
	受取利息		6,320			
	収入の部合計(A)		98,566,217			

【支出の部】

大項目	勘定科目		金額	内訳		摘要
	中項目	小項目		単価	数量	
1事業費			92,632,567			
	会場関係費		46,461,493			
		1 会場使用料	5,666,015			
		2 会場設備備品使用料	4,917,014			
		3 シャトルバス	1,646,000			
		4 機材関連経費	18,460,617			
		5 看板・表示物	2,047,500			
		6 パネル	9,026,388			
		7 諸経費	4,697,959			
	消耗品費		410,778			
	招聘関係費		7,243,578			
	印刷費		8,856,488			
	広報費		1,092,000			
	通信運搬費		2,965,960			
	業務委託費		19,135,676			
	人件費		233,310			
	表彰関係費		0			
	会議費		3,455,394			
	旅費交通費		622,390			
	事務負担金		0			
	雑費		2,155,500			
	支出の部合計(B)		92,632,567			
	収支差額(A)-(B)		5,933,650			
	余剰金		5,933,650			学会返還
	(うち事業税等)		(4,124,600)			法人税等及び消費税の負担額※
	支出総合計		98,566,217			